

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	日本文化論	
科目基礎情報							
科目番号	75		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻		対象学年		専2		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	毎回自作プリントを配布する。						
担当教員	田貝 和子						
到達目標							
☐ 日本語の歴史を通時的に学ぶことで、自己の表現活動に役立てることができる。 ☐ 文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。 ☐ 論理的かつ多角的な理解力、柔軟な思考・発想力を含む主体的な表現意欲を培うことができる。 ☐ 社会で 사용되는ことをばを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	日本語の歴史を通時的に学ぶことで、自己の表現活動に役立てることができる。		日本語の歴史を通時的に学ぶことで、自己の表現活動に役立てることができる。		日本語の歴史を通時的に学ぶことで、自己の表現活動に役立てることができない。		
評価項目2	文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。		文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。		文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができない。		
評価項目3	論理的かつ多角的な理解力、柔軟な思考・発想力を含む主体的な表現意欲を培うことができる。		論理的かつ多角的な理解力、柔軟な思考・発想力を含む主体的な表現意欲を培うことができる。		論理的かつ多角的な理解力、柔軟な思考・発想力を含む主体的な表現意欲を培うことができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	日本語の歴史を学習し、また、日本語を実際に分析し、日本語を理解する。また、資料収集の作業を元に、自分の研究テーマに関する事項に対して、日本における歴史の変遷を探り、自分の研究テーマに対して、日本文化史の視点から発展可能な事項を見出す。						
授業の進め方・方法	前半は、日本語の歴史について講義を行い、また、日本語の分析を行う。 後半は、各自のテーマについて、日本における歴史の変遷を調査する。その後、発表及びレポートとしてまとめる。						
注意点	歴史を知することは、現代を知ることです。ことばが変化してきた様子について、思いを馳せてみてください。 また、現代科学の参考となる事項を掘り起こし、日本の風土に適合した開発を考える第一歩になればと思います。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業概要		授業の概要を述べ、意義と目的について説明する。 日本語史の全体像について理解する。		
		2週	日本語分析 1		日本語を分析する方法について理解する。		
		3週	上代の日本語／日本語分析 2		上代（奈良時代）の日本語の特色について学ぶ。		
		4週	中古の日本語／日本語分析 3		中古（平安時代）の日本語の特色について学ぶ。		
		5週	中世の日本語／日本語分析 4		中世（鎌倉室町時代）の日本語の特色について学ぶ。		
		6週	近世・近代の日本語／日本語分析 5		近世（江戸時代）以降の日本語の特色について学ぶ。		
		7週	日本語分析発表		分析した日本語の文章について発表する。		
		8週	日本語史のまとめ（試験）		日本語史についての筆記試験。		
	2ndQ	9週	テーマ設定		自己の研究に関連するテーマを設定する。		
		10週	資料収集方法		辞書や索引などを使って、資料収集を行う。		
		11週	レポート作成 1		資料をもとにレポートを作成する。		
		12週	レポート発表準備		レポートの内容についての発表準備をする。		
		13週	レポート発表		レポートの内容について発表する。		
		14週	レポート作成 2		レポートの内容を修正する。		
		15週	総括		授業の総括を行う。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	20	10	10	0	0	60	100
基礎的能力	20	10	10	0	0	60	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0